

# 国立天文台とともに推進する 光赤外・将来計画

- 国立天文台では、大学だけでは実現できない、先端的な共同利用研究開発を、**最優先課題**として進めるべきである。

**TMT 計画の推進、すばる望遠鏡の戦略的・有効的  
利用の推進**

- 国立天文台では、大学とともに、天文学全体の拡充につながる教育・基礎的な研究開発のための基盤形成を担うべきである。

**大学間連携支援（大学望遠鏡の活用）**

**中小口径望遠鏡「共同利用」施設の充実**

**\* 岡山観測所の有効利用**

後者に関連し、光赤外コミュニティとしては次の方向性を目指す。

- 各大学の目的を特化した望遠鏡・装置による研究・教育の推進  
教育を主目的とする望遠鏡・装置の充実  
岡山サイトの潜在的な重要性は大きい

- 望遠鏡を持たない大学における教育、基礎研究・開発  
汎用望遠鏡による教育、基礎研究・開発  
岡山 → 京大3.8m

188cm は、共同利用の役目を終え、  
目的を特化した研究を研究者グループの努力＋  
国立天文台のサポートにより可能な限り継続

## 188cm 共同利用の停止と、その後も含めた岡山サイトの維持

既存のインフラストラクチャーを利用し、大学等における観測天文学の「教育」および「基礎的」「萌芽的」「長期的」な研究を可能とする共同利用施設として国立天文台として可能な限り維持するべきである。

## 188cm 望遠鏡共同利用

共同利用に関しては、京都大学 3.8m 望遠鏡が安定して稼働する段階で、当初利用可能な装置をもってこれに移行することは**妥当である**。

一方、3.8m 有効利用のための観測装置の開発を大学・ユーザ研究者の主体的努力と国立天文台の支援により策定し、実現のための努力を行うべきである。

また、27年度以降についても、維持可能な限り188cm によるサイエンス観測を行いたい。その場合、中心となる観測グループによる競争的資金の獲得など、自主的な努力が必要となることが想定されるが、国立天文台としても、「廃止ありき」ではなく、可能な限りサイエンス観測存続の手段を講じて欲しい。

これらの観点に基づいて、光赤天連としては、光赤外専門委員会による答申案を支持する。

## 光赤天連会員からの意見、要望

### ● ユーザが、自身の研究開発の努力を進めるための前提として

- 京大望遠鏡グループで既に構想している観測装置
- その他のグループの観測装置構想・要望
- 現188cm鏡用観測装置を移設する場合

について、スペック・体制・予算・スケジュールの現状を可能な限り含めて、比較一覧できるようにすることを要望。

●国立天文台には、京大3.8m望遠鏡が「岡山188cm望遠鏡の後継と十分になり得る状況」が実現するまでの間、期限を切らずに、人的・技術的・経済的・政治的、様々な側面から積極的な支援をして頂きたい。

●NPO 的組織まで含めた、188cm 維持のための新たな枠組みを考えてはどうか。